令和6年

6月8日(土)歴史講演会

知恵伊豆と称された信綱公の血を引く

「三河吉田藩・藩主大河内松平家と野火止の地」

野火止の地は聖地であった！

三河吉田藩・藩主大河内松平家にとって

野火止用水開削者・安松金右衛門の子孫も仕えた

この紺糸威腹巻は昭和4年に大河内正敏子爵が豊橋市の安久美神戸神明社へ奉納されたもの・・・「豊橋市美術博物館」

- ■ 時 間：午後1時30分～午後3時（午後1時開場）
- ■ 場 所：ふるさと新座館ホール（新座市野火止6-1-48）
- ■ 講 師：豊橋市美術博物館　学芸員　久住祐一郎
- ■ 定 員：100名（当日受付順）
- ■ 問合せ：新座市シティプロモーション課内
  新座市観光ボランティアガイド協会事務局
  （☎ 048－424－4686）
- ■ 主 催：新座市観光ボランティアガイド協会

市産業観光協会
ホームページ

三河吉田藩について

愛知県の南東部に位置する人口約37万人の豊橋市は、明治2年（1869）まで「吉田」と呼ばれていた。平安時代には伊勢神宮領として「吉田御園」という名称が確認できる。戦国時代を経て豊臣秀吉が天下統一を果たすと、東三河は池田輝政に与えられ、吉田城を拠点に領国支配が行われた。

江戸時代になると、吉田藩は7万石を領する三河最大の藩であった。東海道の要衝を固める重要な位置にあったため、幕府の信頼が厚い譜代大名が配置された。吉田藩の政庁が置かれた吉田城は「出世城」であったため、藩主が幕府の要職に就くたびに転封が繰り返され、江戸時代を通じて9家22人の藩主がいたが、江戸時代後期の約140年間は大河内松平家が7万石で治めた。同家は三代将軍徳川家光の信頼が厚く「知恵伊豆」の渾名で有名な松平信綱を祖とする譜代大名で、代々の藩主は伊豆守を名乗った。信綱をはじめ、信祝、信明、信順の四人が老中を務め、最後の藩主信古も幕末の政治的混乱期に大阪城代を務めるなど、譜代大名としての重責を担った。

文化8年（1811）3月16日、松平信順（信綱嫡流で8代目、1817年に藩主）は信綱の150回忌及び母の7回忌に野火止にきており、「野火止紀行」の中に「聞かでしも　その名はしるし玉河の流れの末の　いとど澄めれば」と詠んでいる。その子信宝は天保12年（1841）4月11日、病弱の父信順の名代として参勤交代で三河吉田に帰国する前に、野火止の地に出向いて先祖の墓前でお国入りが決まったことを報告した。

そして、藩主だけでなく参勤交代の供などで江戸へ出てきた吉田藩士、特に古くから伊豆守家に仕えてきた藩士であれば、同家が治めていた川越や古河に先祖の墓があるため、歴代藩主が眠る野火止の地に参詣したあとで自身の先祖の墓参りをしたのである。かように野火止の地は三河吉田藩・藩主のみならず藩士にとって精神的な支えとなる特別な聖地であった。

→ 以上「三河吉田藩（久住祐一郎著）」一部抜粋

良く知られている野火止用水の開削者安松金右衛門吉実の子孫達も累代明治に至るまで三河吉田藩士として大河内松平家へ仕え忠義を尽くしました。今回の講演会・講師である豊橋市美術博物館学芸員の久住祐一郎氏は、4年前に「吉田城と三河吉田藩」藩主大河内松平家の歴史と文化企画展に携わり著書多数、古文書読み解きのエキスパートです。

皆様の6月8日（土）講演会へのご来場を心よりお待ちしております！！

新座市観光ボランティアガイド協会より

吉田城本丸二之丸絵図

豊橋市中央図書館所蔵の資料により掲載